

グループディスカッション議事概要

第5回利用促進部会(平成18年6月6日(火)(13時30分~17時20分)) 於:八重洲富士屋ホテル
(ご質問などについては、トップページ記載のNICT連絡先までお願いいたします。)

1. グループごとのテーマ

グループA:「地域活動との連携について」

(グループ長:NICT九州リサーチセンター 広岡 淳二 特別研究員)

グループB:「ICTを活用した地域産業の活性化について」

(グループ長:高知工科大学 菊池 豊 助教授)

グループC:「地域社会への応用について」

(グループ長:岩手県立大学 柴田 義孝 教授)

2. ディスカッション議事概要 (参加者約80名)

グループA) 地域活動との連携について

- ・ コミュニティを形成すれば、最初は小規模であっても、やがてそれが大きな輪になっていく。だがコミュニティを継続させるためには、コミュニティを運営していく人(技術者、マネージャ)を育てる必要がある。
- ・ ネットワーク環境やインフラが整ってもそれだけでは不足であり、コミュニティの活性化のためには、技術的な人材だけではなく、アプリケーションやデザイン、企画などを考える人材も必要である。
- ・ コミュニティが最終的に地域と連動していく際には、行政のバックアップが求められる。

グループB) ICTを活用した地域産業の活性化について

- ・ 地域活性化において、例えば産学連携やベンチャーなどのような、起点となるアイデアがないことが問題である。ラストワンマイルなどのよく挙げられる課題も、こうした起点があればクリアできると思われる。
- ・ 地域で予算を得てシステムを導入しても運用が続かないことが多い。システムを効果的に運営し続けるためには、継続的にマンパワーや予算が必要となる。
- ・ 地域におけるキーパーソンを探し、育てることに加え、キーパーソンが自由に動けるような環境の構築やキーパーソン世代交代なども重要である。

グループC) 地域社会への応用について

- ・ 一口に利用して頂きたい人といってもそのレベルは様々であり、敷居が高い、使い方がわからない等の印象を与えないよう、アピールしたい相手のレベルに合わせていく必要がある。
- ・ 「防災」のようなアピール効果の高い切り口をベースに、JGN と地域情報ハイウェイの相互接続や広域化などへと発展させていくことが、地域社会への浸透に効果的だと思われる。
- ・ 他の利用者や、通信事業者など、人と人との繋がりによって問題が解決される場合もある。各種の会合や意見交換など、地域におけるヒューマンネットワークを拓げていくことが重要である。

以上